

秦野赤十字病院群臨床研修プログラム (基礎研修・必修項目)

(抄)

I プログラムの名称

秦野赤十字病院群臨床研修プログラム（基幹型臨床研修病院：秦野赤十字病院）

II プログラムの目的

「患者を全人的に診ることのできる基礎的な臨床能力を身に付けること」つまり「疾患を診るのではなく、疾患を有する患者を診る」態度と、医師として将来どのような分野に進むにせよ、医学・医療の社会的ニーズを認識しつつ「日常診療で頻繁に遭遇する疾患や症状に適切に対応できるよう、幅広い基本的な臨床能力（態度、技能、知識）を有する」医師を育て上げることを目標とする。

III 臨床研修の一般的目標と行動目標

1 一般目標

- (1) 社会人としての常識と態度を身に付ける
 - ① 礼儀正しい言葉と挨拶が交わせる
 - ② 清潔でさっぱりとした身だしなみをする
 - ③ 協調性を身に付ける
- (2) 研修医として習得すべきこと
 - ① 病院の理念と運営方針を理解する
 - ② 他の職種を理解しチームワークを築く
- (3) 医師として必要な知識と技術を習得する
 - ① 医師法の理解
 - ② 守秘義務の徹底
 - ③ 保健医療の理解
 - ④ 診療に必要な医療面接、身体診察、診療録の記載が適切に行える
 - ⑤ 頻度の高い疾患や外傷そして症状の診断と治療が行える
 - ⑥ 救急の初期診療が行える
 - ⑦ 慢性疾患や高齢者の適切な管理が行える
 - ⑧ 患者や家族と良好なコミュニケーションがとれ、患者をとりまく環境を理解し診療にのぞむ
 - ⑨ 対処できない事柄は上司、他科、他施設に相談できる判断力を身に付ける
 - ⑩ 予防医学の理解と実践
 - ⑪ 終末期医療の理解と研修
 - ⑫ チーム医療の実践
 - ⑬ へき地や災害時の医療を想定した自己研修に努める

2 行動目標

- (1) 具体的な行動目標は各科のプログラムに記載されており、それらの中で必須項目は研修期間内に必ず習得できるようにする
- (2) 医師として必要な技術は最初のオリエンテーションで習得する
 - ① 注射（皮内、皮下、筋注、静注、血管確保）
 - ② 採血（静脈、動脈）
 - ③ 導尿、膀胱内カテーテル挿入
 - ④ 胃管挿入
 - ⑤ 心電図検査
 - ⑥ 指示簿書き方
 - ⑦ 処方箋の交付（麻薬も含め）

- ⑧ 文書（診断書）書き方
- ⑨ オーダリングシステムの使い方
- (3) 基本的な診察法、手技、治療法は内科と外科で習得し、さらに各科研修中にそれらを深める
- (4) 医師に必要な知識、技術に関する講義を行う（必修研修科以外）
 - ① 胸部単純写真読影（放射線科）
 - ② 腹部単純写真撮影（放射線科）
 - ③ 頭部CTとMRIの読影（放射線科）
 - ④ 胸部CTの読影（放射線科）
 - ⑤ 腹部CTの読影（放射線科）
 - ⑥ 整形領域のCTとMRIの読影（放射線科）
 - ⑦ RI診断（放射線科）
 - ⑧ 放射線治療（放射線科）
 - ⑨ うつ病の早期診断と治療（精神科）
 - ⑩ リエゾン精神医学（精神科）
 - ⑪ プライマリケアに必要な精神科領域の薬剤の使い方（精神科）
 - ⑫ 脳卒中後のリハビリ（リハビリテーション科）
 - ⑬ 眼科領域の救急疾患（眼科）
 - ⑭ めまい、耳鳴り、難聴、救急疾患（耳鼻咽喉科）
 - ⑮ 病院の運営方針（病院長）
 - ⑯ 病院の理念（病院長）
 - ⑰ 病院の経営（医療情報課長）
 - ⑱ 赤十字のあり方（総務課長）
 - ⑲ 栄養療法（栄養課長）
 - ⑳ 感染対策について（院内感染対策委員長）
 - 21 診療録の書き方について（診療情報管理委員長）
 - 22 EBMについて
 - 23 リスクマネジメントについて（医療安全管理委員長）
 - 24 地域連携について（地域医療連携室長）
 - 25 クレームの分析（医療社会事業課）
 - 26 患者は何を希望しているのか（医療社会事業課）
 - 27 医師と看護師の連携について（看護副部長）
 - 28 災害医療について（社会課長）
- (5) 入院時のオーダと退院時のサマリー作成
- (6) 救急は研修期間を通して行う
- (7) 終末期医療は研修期間を通して行う
- (8) 院内外研修の実施（看護部、検査部、放射線科部、薬剤部、リハビリテーション課、救急隊、診療所見学など）

IV プログラムの特徴

- (1) 秦野赤十字病院で common disease, common symptom を経験すると共に、診療所、専門病院（選択）でより専門性の高い医療を経験することができます。
- (2) 医療面接と身体検査から診断する能力（心構え）を身に付けることを研修の主眼におきます。
- (3) 医療に携わる多くの職種の人たちから研修指導を受けます。
- (4) 外来診療をより充実します。

V 勤務時間

- ▶月～金 8：30～17：00（休憩時間：12：00～12：45）
（土・日曜日、祝日、日本赤十字社創立記念日、年末年始(12月29日～1月3日)は休み）
- ▶当直は週2回以内（原則1回）

Ⅳ 臨床研修病院群について

秦野赤十字病院群内の各研修施設の特徴を活かしながら、臨床研修の基本理念に則り、より良い研修指導環境を創造したいと考えています。

当院では、地域医療とプライマリケアを担う医師の育成を大きな使命とし、各研修病院と指導医が使命に向けて協力し、互いに交流し切磋琢磨する中で研修医にとって最良の研修プログラムと最良の研修環境を構築すること、病院群全体の医療の質を向上させること、指導医を養成していくことなどをこの病院群の重点的な目標においています。

Ⅴ プログラム等の問い合わせについて

【プログラム問合せ先】

プログラム責任者 澤田 玲民（副院長 兼 臨床研修統括責任者）

Tel 0463-81-3721 Fax 0463-82-4416

【資料請求・応募方法等】

事務部 総務課 総務係長

Tel 0463-81-3721（内線 2308） Fax 0463-82-4416

e-mail : somu2@hadano.jrc.or.jp

研修プログラムと本年度募集について(2024年度)

プログラム

年次		期間	研修分野	病院・施設
1年次	必修	24週	内科	秦野赤十字病院
		12週	救急	秦野赤十字病院
				横浜市立みなと赤十字病院
		8週	外科/麻酔科(各4週)	秦野赤十字病院
		4週	産婦人科	東海大学医学部付属病院
				横浜市立みなと赤十字病院
4週	小児科	秦野赤十字病院		
		東海大学医学部付属病院		
4週	精神科	秦野病院		
		みくるべ病院		
2年次	必修	4週	地域医療	古閑医院
				あづま山在宅クリニック
	選択	44週	総合内科	秦野赤十字病院
			腎臓内科	
			脳神経内科	
			消化器科	
			一般消化器外科	
			糖尿病・内分泌内科	
			循環器科	
			小児科	
			整形外科	
			脳神経外科	
			泌尿器科	
			皮膚科	
			耳鼻咽喉科	
			麻酔科	
			放射線科	
			チーム医療	
			救急	横浜市立みなと赤十字病院
			産婦人科	東海大学医学部付属病院
			小児科	
			産婦人科	東海大学医学部付属病院
			呼吸器内科	
			心臓血管外科	
形成外科				
画像診断科				
病理診断科	神奈川県立足柄上病院			
総合診療科				
皮膚科				
保健・医療行政	老人保健施設みかん			

- 秦野赤十字病院の小児科を選択する場合は、さらに4週の東海大学医学部付属病院での研修が必修。
- 2年を通して、52週は基幹施設である秦野赤十字病院で研修を受ける。
- ただし、そのうち12週までを地域医療での研修に振り替えることができる。
- この表は目安であり、研修時期・期間・科目については、調整する。

【募集人員】

秦野赤十字病院初期臨床研修病院群基本研修プログラム 募集人員 2人

研修医の募集

1. 募集方法

あらかじめ本プログラムを公開し、全国に公募します。当院総務課が応募の窓口となります。

2. 応募方法

当院の指定する応募書類を用いて申請します。別紙「募集要項」を参照。

3. 研修医の選抜方法

当院は、日本医師臨床研修マッチング協議会の行う研修医マッチングシステムに参加し、その日程に従い、当院の研修プログラムに応募した研修希望者に対して、医療面接等による採用試験を実施します。その後は、選考結果に基づき希望順位表をマッチング協議会に提出し、マッチング及びその結果を待って採用者を決定します。組み合わせが決定しなかった分についてはマッチング終了後に募集し、採用試験を実施の上採用者を決定します。

4. 研修期間

原則として、2024年4月1日～2026年3月31日までの2年間とします。

研修課程

1. 研修医の所属

秦野赤十字病院の所属とします。

2. 研修方式

- (1) 研修科目は、1年次に必修科目である内科・救急・外科・産婦人科・精神科・小児科を行います。2年次には必修の地域医療を4週行い、その後は選択科目の研修を行います。選択研修では、研修医の判断に従って研修不十分な内容の補填や将来の専門分野への研修が期待できます。
- (2) 研修医は、研修開始前に2年間の研修プログラムとローテーションをあらかじめ決定します。その場合のローテーションの順番や希望研修科については、研修医の希望に沿って研修管理委員会が調整します。
- (3) 研修期間全体を通じて、各科症例検討会、CPC等へ出席することを必修とします。
- (4) 秦野赤十字病院での研修を52週以上実施することとします。

臨床研修の管理運営体制

1. 秦野赤十字病院に研修管理委員会を置き、各研修施設に任者を置きます。

2. 研修管理委員会は、次に掲げる業務を行います。

- (1) 研修プログラムに則った研修の実施及び管理
- (2) 研修医の全体的管理
- (3) 研修医の研修状況の管理
- (4) 担任指導医等の指導、管理
- (5) その他、卒後臨床研修に関する業務

指導体制

1. 研修医が研修する各研修科に、臨床研修責任者と担任指導医を置いています。また、その下に「屋根瓦方式」の指導体制として研修協力医を置き、責任ある研修を行います。
2. 担任指導医は、プライマリ・ケアを中心とした指導を行い得る十分な臨床経験と高い指導技能を有し、勤務体制上指導時間を十分に取れる専任医師です。
3. 担任指導医1人が指導を受け持つ研修医は、原則として1人とします。担任指導医は研修期間中、研修医の指導と評価、評価のフィードバックを受け持ちます。

研修評価

1. 研修医の知識・技能・態度の臨床研修目標に対する達成度を測定するため、EPOCにて評価を行

います。

2. 評価は、診療技術面のみならず、チーム医療や患者とのコミュニケーションの面も含め、多面的に実施します。
3. 研修管理委員会では、評価表に沿って研修医の自己評価と担任指導医からの評価、看護師長からの評価、受持ち患者からの評価、ならびに研修医による指導評価を実施します。
4. 担任指導医は担当する研修科での指導期間中、日常的な観察を通じて、研修目標の到達状況を把握し評価します。また、各評価者から提出された評価表を取りまとめ、評価結果を研修医に説明すると共に、その結果を基に研修医が研修到達目標達成に近づくよう適切な助言・指導を行います。
5. 2年間の研修終了時にOSCE（客観的臨床研修能力試験）と研修医の最終自己評価を実施します。

臨床研修の終了

1. 研修管理委員会は、研修医の臨床研修期間終了に際し評価表等を基に、研修到達目標の達成度を総合評価します。
2. 総合評価に基づき、研修医が臨床研修を終了したと認められる時には臨床研修終了証を交付します。
3. 総合評価に基づき、研修医が臨床研修を終了していないと認めた時には、その旨を研修医に通知します。

※ 医師としての適正に欠く場合など臨床研修を継続することが困難な場合には、当該研修医に対する臨床研修を中断します。

研修医の基本的任務

- (1) 研修医は、担任指導医のもとに、担当医として主治医の指示する診療を行います。また、診療科以外の部門ではその責任者のもとで研修します。
- (2) 診療に当たっては、主治医が決定した診療計画に基づき、医学的に正しい診療を行うものとします。
- (3) 研修医は、各研修施設の医療安全管理体制に従い、患者に対する責任を持って事故の発生を未然に防ぐとともに、事故発生時には速やかに所定の手続きを取らなければなりません。
- (4) 研修医の研修期間中のアルバイト診療は禁止します。
- (5) 研修期間中、研修医には研修施設の諸規則、関連法令を遵守する義務があります。

研修医の処遇

■ 処遇	
処遇の適用 常勤・非常勤の別	病院独自の処遇に従う 常勤
■ 研修手当	
一年次	基本手当: 400,000/月 賞与: 400,000/年 ※税込
二年次	基本手当: 420,000/月 賞与: 420,000/年 ※税込
時間外手当	有
休日手当	有
■ 勤務時間、休暇	
勤務時間	8:30~17:00 時間外勤務の有無: 有
休暇	有給休暇(1年次): 15日 有給休暇(2年次): 21日 夏季休暇: 有 年末年始: 有 その他休暇: 土、日、祝日、年末年始、創立記念日、冠婚葬祭等に伴う特別有給休暇
■ その他	
当直	4回/月
研修医のための宿舎	無、但し住居手当の支給あり(28,500円)
研修医のための個室	1室
社会保険・労働保険の扱い	公的医療保険: 組合管掌健康保険 公的年金保険: 厚生年金 労働者災害補償保険法の適用: 有 国家・地方公務員災害補償法の適用: 無 雇用保険: 有
健康管理	健康診断: 年2回
医師賠償責任保険	病院において加入: する 個人加入: 任意
外部研修活動	学会研究会等への参加: 可 学会研究会等への参加費用支給: 有

後期研修、初期研修終了後の専門医資格取得について

当院での初期研修終了及びその後の研修で取得可能な専門医資格については次のとおりです。

初期研修終了及びその後の研修で取得可能な専門医資格一覧

科	取得可能な専門医の資格
内科	認定内科医
内科(消化器)	消化器病専門医
内科(循環器)	循環器専門医
内科(腎臓)	腎臓専門医
内科(透析)	透析専門医
神経内科	神経内科専門医
外科	外科専門医
外科	消化器外科専門医
外科	消化器内視鏡専門医
外科	がん治療認定医
整形外科	整形外科専門医
泌尿器科	泌尿器科専門医
脳神経外科	脳神経外科専門医

31. 研修プログラムの名称及び概要

プログラム番号：060003204

病院施設番号：060003

臨床研修病院の名称：秦野赤十字病院

臨床研修病院群番号：0600032

臨床研修病院群名：秦野赤十字病院臨床研修病院群基礎研修プログラム

プログラム番号、病院施設番号及び臨床研修病院群番号は、既に取得されている場合に記入してください。

1. 研修プログラムの名称	秦野赤十字病院臨床研修病院群基礎研修プログラム				
2. 研修プログラムの特色	地域医療を担う病院として、救急医療や継続的な医療、高齢者医療や緩和医療を赤十字理念に基づいて実施し、医学的に均整のとれた臨床医を育成する。				
3. 臨床研修の目標の概要	プライマリ・ケアを基本とした全人的医療が実施できるよう、知識・技術・態度を習得することを目的とし、各職種間における連携を重視したチーム医療を学ぶこととする。				
4. 研修期間	(2) 年 (原則として、「2年」と記入してください。)				
備考	研修後そのまま専門研修に入り3年以上研修可能な病院は、その旨を記入してください。				
5. 臨床研修を行う分野	研修分野ごとの病院又は施設 (研修分野ごとの研修期間) * 同一の研修分野について複数の病院又は施設で研修を行う場合には、適宜欄を分割してすべての病院又は施設の名称 (病院施設番号) を記入してください。 * 研修期間は、研修分野ごとに週単位で記入してください。各研修分野におけるプログラムの詳細は備考欄に記入してください。 * 選択科目については、その診療科を選択した場合の病院又は施設等を記入してください。				
	病院施設番号	病院又は施設の名称	研修期間	内一般外来	
(記入例) x x 科	1234567	〇〇 病院	〇週	〇週	
必修科目・分野	内科	060003	秦野赤十字病院	24 週	3.4 週
	救急部門	060003 030266	秦野赤十字病院 横浜市立みなと赤十字病院	12 週	
	地域医療	096620 096622	古閑医院 あづま山在宅クリニック	4 週	一般外来 0.6 週 在宅診療 0.2 週
	外科、麻酔科	060003	秦野赤十字病院	8 週(各 4)	週
	小児科	060003 030287	秦野赤十字病院 東海大学医学部附属病院	4 週	週
	産婦人科	030287 030266	東海大学医学部附属病院 横浜市立みなと赤十字病院	4 週	
	精神科	060014 060003	秦野病院 みくるべ病院	4 週	
	一般外来			週	
病院で 定めた 必修 科目			週		
			週		
			週		
			週		

選択 科目	総合内科、循環器科、腎臓内科、脳神経内科、消化器内科、糖尿病・内分泌内科、一般消化器外科、小児科、整形外科、脳神経外科、泌尿器科、皮膚科、耳鼻咽喉科、放射線科、チーム医療	060003	秦野赤十字病院	44 週
	呼吸器内科、心臓血管外科、画像診断科、病理診断科、形成外科	030287	東海大学医学部付属病院	
	産婦人科	030266	横浜市立みなと赤十字病院	
	総合診療科、皮膚科		神奈川県立足柄上病院	
	保健・医療行政	060003	老人保健施設みかん	

備考：基幹型臨床研修病院での研修期間・・・最低 52 週 ※原則として、52 週以上行うことが望ましい。
臨床研修協力施設での研修期間・・・最大 0 週 ※原則として、12 週以内であること。ただしへき地・離島診療所等の研修期間が含まれる場合はこの限りでは無い。

研修プログラムに規定された 4 週以上のまとまった救急部門の研修を行った後に救急部門の研修としてみ
なす休日・夜間の当直回数・・・約 4 回

救急部門（必修）における麻酔科の研修期間・・・最大 4 週 ※但し、4 週を上限とする

一般外来の研修を行う診療科・・・内科、小児科、地域医療、選択科

※地域医療の中での在宅診療を一般外来の欄に記載すること

秦野赤十字病院の小児科を選択する場合は、さらに 4 週の東海大学医学部付属病院での研修を必須とする。2 年を通して、52 週は基幹施設である秦野赤十字病院で研修を受ける。ただし、そのうち 12 週までを地域医療での研修に振り替えることができる。

研修時期・期間等については、目安であり、調整する。

一般外来研修は内科、地域医療において合計 4 週以上実施し、研修日数が不足する場合には、小児科、選択科（小児科・総合内科）で研修する。

秦野赤十字病院にて、GPC を年に 3～4 回実施する。選択しない科目については、カンファレンスへの参加、短期間の研修を実施する。

プログラム番号、病院施設番号及び臨床研修病院群番号

病院施設番号： 060003

臨床研修病院の名称： 秦野赤十字病院

は、既に取得されている場合に記入してください。

臨床研修病院群番号： 0600032

臨床研修病院群名：

6. 研修スケジュール（1年次・2年次：いずれかに○）

プログラム番号

臨床研修開始週を基準に各週の研修人数を記入してください。*1

(No. 1)

病院又は施設の名称 (病院施設番号)	研修分野*	1 週	2 週	3 週	4 週	5 週	8 週	9 週	11 週	12 週	16 週	17 週	20 週	21 週	24 週	25 週	28 週	29 週	32 週	33 週	36 週	37 週	40 週	41 週	44 週	45 週	48 週	49 週	52 週
秦野赤十字病院 (060003)	内科	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
秦野赤十字病院 (060003)	救急部門	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
横浜市立みなと赤 十字病院 (030266)	救急部門																												
秦野赤十字病院 (060003)	外科																												
秦野赤十字病院 (060003)	麻酔科																												
秦野赤十字病院 (060003)	小児科																												
東海大学医学部附 属病院 (030287)	小児科																												
東海大学医学部附 属病院 (030287)	産婦人科																												
横浜市立みなと赤 十字病院 (030266)	産婦人科																												

*1：臨床研修病院群における臨床研修で、1つの研修プログラムの中で研修医によって研修を行う研修分野の順番が異なる研修方法（たすきがけ方式等）を採用する場合は、当該研修プログラム及び研修分野並びに当該分野の研修を行う病院又は施設の名称及び研修期間を本用紙に記入した上で、研修分野の順番のパターンごとに研修スケジュールを別業に記入すること。また、同様の研修プログラムが複数存在する場合は、すべての研修プログラムを1枚にまとめたものを添付すること。

*2：「研修分野」欄には、「5. 臨床研修を行う分野」欄に記入した研修分野を記入すること。

*3：選択科目の研修分野の各月の研修人数については、病院ごとの研修医の受入予定の中で考えられる最大の受入数を記入すること。

プログラム番号、病院施設番号及び臨床研修病院群番号は、既に取得されている場合に記入してください。

病院施設番号： 060003

臨床研修病院の名称：秦野赤十字病院

臨床研修病院群番号： 0600032

臨床研修病院群名：

6. 研修スケジュール（一年次・二年次：いずれかに○）

臨床研修開始週を基準に各週の研修人数を記入してください。* 1

プログラム番号

(No. 1)

病院又は施設の名称 (病院施設番号)	1~ 4週	5~ 8週	9~ 12週	11~ 16週	17~ 20週	21~ 24週	25~ 28週	29~ 32週	33~ 36週	37~ 40週	41~ 44週	45~ 48週	49~ 52週
秦野病院 (060014)	1	1	1	1	1	1							
みくるべ病院 (060003)													
古閑医院 (096620)						1	1	1	1	1	1		
あづま山在宅クリニック (060003)													
老人保健施設みかん (060003)													
秦野赤十字病院 (060003)	2	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
東海大学医学部附属病院 (030287)													
横浜市立みなと赤十字病院 (030266)													
神奈川県立足柄上病院 (031114)													

* 1：臨床研修病院群における臨床研修で、1つの研修プログラムの中で研修医によって研修を行う研修分野の順番が異なる研修方法（たすきがけ方式等）を採用する場合は、当該研修プログラムの研修分野並びに当該分野の研修を行う病院又は施設の名称及び研修期間を本用紙に記入した上で、研修分野の順番のバターンごとに研修スケジュールを別業に記入すること。また、同様の研修プログラムが複数存在する場合は、すべての研修プログラムを1枚にまとめたものを添付すること。

* 2：「研修分野」欄には、「5. 臨床研修を行う分野」欄に記入した研修分野を記入すること。

* 3：選択科目の研修分野の各月の研修人数については、病院ごとの研修医の受入予定の中で考えられる最大の受入数を記入すること。